

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立島根中学校)

編集：情報部

VOL.61 2017.12.12 (時雨号)

発行責任者 蘿 恵 (志学中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 研究大会を終えて (副会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 県大会参加者の感想
- ▶ 研修報告 (全事研大会)
- ▶ 吉賀町立小・中学校事務グループ活動の取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」



研究大会を終えて

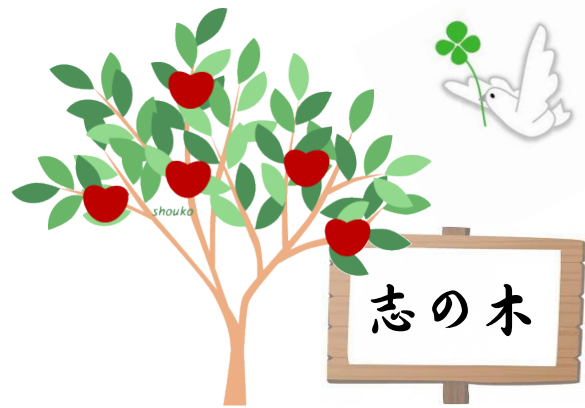
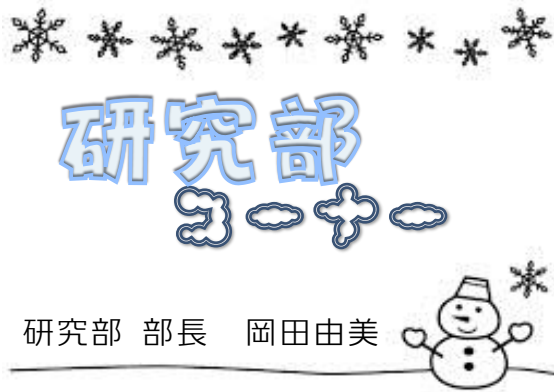
副会長 吉賀 孝則

11月10日、江津市総合市民センター（ミルキーウェイホール）において、教育関係諸機関・団体のご支援・ご協力により、第48回島根県公立小中学校事務研究大会（以下、島事研大会）を開催いたしました。江津市教育委員会教育長小笠原様をはじめ、多数のご来賓の方々にご臨席をいただきました。参加人数は約250名となり、盛大な島事研大会となりました。島事研大会を開催するにあたり、研究発表をされた松江地区（松江市教育研究会学校事務部会）・益田地区（益田市立小中学校事務支援グループ）の皆さん、大会準備委員長を中心とし、準備・運営をされた準備委員会の皆さん、そして関係します全ての皆様に深く感謝し、お礼を申し上げます。島根県公立小中学校事務職員研究会（以下、島事研）の中心といえる事業を無事終えることができました。ありがとうございました。

さて、平成29年4月1日から、私たち公立小中学校事務職員（以下、事務職員）にとって大きな法改正がありました。学校教育法第37条14項の「事務職員は、事務に従事する」から「事務職員は、事務をつかさどる」への改正です。島根県では島根県人事関係法令要覧（管理規則の例）に、主事は「従事する」、主任主事から事務リーダーは「つかさどる」と記載されています。（あくまでも管理規則の例ですので、各市町村の管理規則をご確認ください。）おそらく、今回の法改正により、各市町村の管理規則も事務職員のすべての職名において「つかさどる」に改正されるのではないのでしょうか。そして、職名を問わずこれまで以上に「より主体的・積極的に校務運営に参画すること」が求められるようになると思います。

現在、島根県における事務職員の職名構成は、主事（期付を含む）の割合が46%です。この現状を踏まえ、法改正に対応するための一つの取組として、各地域の事務グループや研究会等で主事（新規採用者や若年層）を対象とした、OJTの充実と必要性がより大きくなると思います。

最後になりますが、各地区の事務グループ会や研究会、会員一人ひとりの活動・取組が島事研活動の基盤となります。今後もよりよい島事研活動となるように、会員皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いします。



県大会が終わりました。

発表していただいた松江市・益田市の皆さん、お忙しい日々の業務の中で、研究をすすめていただき本当にありがとうございました。

研究部では今年も研究発表の運営・司会進行を中心に関わらせていただきました。部長の私が言うとお手前味噌ですが、若手部員がアナウンスや進行をそつなくこなしていて、ステージ袖から安心して見ることができました。県大会のほんのわずかなシーンですが、研究部に役割を与えていただいたおかげで、今年も部員の成長の機会となりました。ありがとうございました。



「つかさどる」と職業観



さて、今、何かと話題の法改正による
「つかさどる」

今回の県大会の講演でも

- ①『つかさどる』のイメージ化
- ②実際の業務に生かすには？

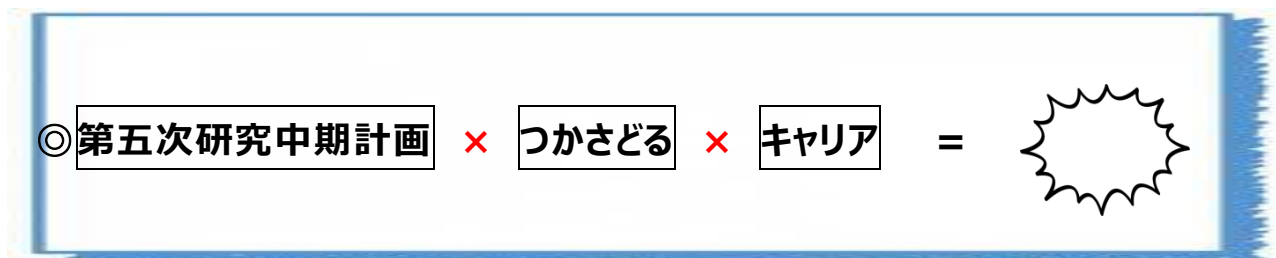
という内容で、法改正について熊丸先生にわかりやすく説明していただき、具体的に日常の業務につなげていこうと前向きに思えるワークショップをしていただいたところです。

しかし、まだ、それぞれに消化しきれていない、十分に深まっていないのが現状だと思います。「つかさどる」が一時の流行言葉だけになってしまわないよう、形骸化されないよう、熊丸先生から刺激していただいた今のうちに、各地区の事務グループ業務をとおして、また自己の意識変革につなげていきたいですね。

もちろん研究をすすめるうえでも、組み込むことは必須の「つかさどる」です。

つつい、「つかさどる」という言葉だけが、負担感を伴って独り歩きしがちなところもあります。しかし「つかさどる」とは、決して業務の量を増やす方にベクトルを向ける訳ではなく、仕事・業務への関わり方、たずさわりに意識を向けることで、仕事の質が高まるようにつなげていくことが大切だと思います。

まさに研究テーマである「学びの質の向上につながる学校事務」を展開していくために、今回の法改正は具体的な手段を導くものでもあり、私たちの背中を押してくれるものであると感じています。必然的に、現在進行形の第五次研究中期計画に法改正「つかさどる」役割をかけ算することとなります。こんな感じで！



どんな結果・成果が生まれるのでしょうか？

このように研究をすすめることで、「つかさどる」学校事務が展開できる学校事務職員に近づくことにもつながっていくのではないのでしょうか。

さて、私自身、まずは自分の持っている職業観が「つかさどる」のイメージ化につながるものが大きいと思っています。事務を「つかさどる」ことがどういうことなのか、自分ならどうすることなのか、自分なら何をめざしたいのか、その人のもつ職業観なしではイメージできないと思うのです。

これを機に、職業観について・・・

「将来はこうありたい！」
 「こういう働き方をしたい！」
 etc. 考え、仲間と語り合ってみませんか？



「つかさどる」ということのイメージ化、そして実際の業務に生かせるきっかけ作りになると思います。そして、今、何となく負担に感じていたとしても、きっと前向きなモチベーションへの転換のきっかけになると思います。というか、なってほしいなあ！！

第48回 島根県公立小中学校 事務研究大会

期日：11月10日

会場：江津市総合市民センター

☆ 講演 ☆

『学びの質の向上』をもたらす学校事務
職員であるために

講師 島根大学大学院教育学研究科
准教授 熊丸 真太郎 様

参加者の感想

これからの事務職員の職務も求められてくる所は高くなるが、1つ1つクリアして、自分に何ができるのか、何をしたいのか、どうやったら良くなるのかを考えることを大切にしたいと思いました。

「つかさどる」にかわったことで自分にできることを考える機会となり、グループで話をして若い方の新鮮さを感じ、自らを振り返るチャンスをもらいました。気持ち新たに明日からの仕事に向かえそうです。

“事務をつかさどる”に変わったことで、事務職員の質が求められ、とてもプレッシャーに思う面もあるが、学校のために何ができるのか、個々の意識向上につながるものであると思った。自ら提案していけるような事務職員になりたい。

「事務に従事する」から「事務をつかさどる」になり、これからどう変わっていかないといけないのかじっくり考えることができました。グループでの話し合いもあり、様々な話を聞くことができ刺激を受けました。

どこに意識をするのか(何のために、誰のためにやっていることなのか)が大事だと思った。専門職として頼りにされるような事務職員でありたいと思った。

「事務をつかさどる」についてわかりやすいお話、グループワークでたくさんのヒントをもらった気がします。大きなことではなく、ほんの小さな一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。世代の違う若い方と意見交換できたのもいい刺激になりました。

「事務をつかさどる」になり、仕事の幅が広がったというより、事務職員1人1人の意識を変えることが大切だと感じました。

「ガラッとではなくても、じわじわ〜っとでいいので変えていこう!」という言葉が、とても印象に残りました。まず、一歩踏み出して、少しずつ変わっていきたいと思います。

自分自身が動き、働き、変わっていこうという気持ちになりました。



第49回全国公立小中学校事務研究大会(京都大会) 研修報告【会場:ロームシアター京都・みやこめっせ】

美郷町立呂智中学校 奥野真理子

8月2日から3日間の日程で、京都大会が開催されました。ことのほか暑い夏でしたが、久しぶりの全国大会参加に心躍らせ京都に向かいました。全国より2,638名、島根から57名が参加し、盛大な研究大会でした。今年は「地域協働による学校づくりと地域づくり」を大会テーマとし、学校事務機能並びに事務職員の役割について追求することを目的に行われました。

参加した福岡支部の分科会でも、新しい実践への第一歩として、学校事務に必要なコンピテンシー・ディクショナリー(職務特性)の探究や実践集を作成することで、事務職員の「実践知」を活用し、新しい「気づき」、実践の「創造」につながるのではないかと提案がありました。

今年4月1日には法改正が行われ、事務職員の職務規程が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改められました。学校がマネジメント機能を十分に発揮できるよう、学校組織で唯一の総務・財務等に通じる専門職である事務職員の職務を見直し、管理職や他の教職員との適切な業務の連携・分担のもと、より主体的・積極的に校務運営に参画することを目指しています。法改正があったと聞いたとき、何がどう変わったのか、これからどうなるのか、よくわかりませんでした。この度の研究大会で、何となくこんな感じかなとスッと私の胸に落ちるものがありました。具体的にどうしていくかは、共同実施等でも研修していきたいと思っています。教育委員会や管理職、もちろん事務職員も、法改正の趣旨をきちんと理解することが必要です。今後、事務をつかさどる事務職員として、チーム学校の学校運営を担っていこうと思う気持ちを強くした大会でした。これからも、子どもたちのために、みんなで模索しながら頑張っていきましょう。



雲南市立掛合中学校 田中ふう

8月2日～4日に京都府京都市で開催された全国公立小中学校事務研究大会に出かけました。「地域協働による学校づくりと地域づくり」という大会テーマに興味を持ったきっかけのひとつは、わたしが勤める雲南市でコミュニティ・スクールが導入されたことです。少しでもわかることが増えたら良いなと思い、参加しました。

分科会は京都支部の発表を聞きました。特色ある財務システムを十分に生かした実践発表を聞き、効率的な運営には、活用するための知識ありきだと改めて感じたところです。「図書室にカウンターがほしい」という教員の一言からはじまった取組みの実践発表は、予算・財務システム等の有効活用に加え、地域の方の力も借りて2年にまたがって達成できたというものでした。発表の中で特に印象に残ったのは、発表者の方が「まず聞いたときに無理だと思った」と言われたことでした。わたし自身、日々の業務の中で“できない”という思いに悩むことが少なくないのですが、「常にしたいと考えチャンスが来たときに迅速に行動に移せるようにしておくことが大切だ」という言葉を心に留めて、前向きに考えていきたいと思いました。

また、大会では「事務に従事する」から「事務をつかさどる」へ法律が改正されたことに触れる話が多く、これからの職務に関して深く考える機会となりました。閉会式で「『つかさどる』は延長ではない、新たなステージだ」と言われたのも印象的でした。

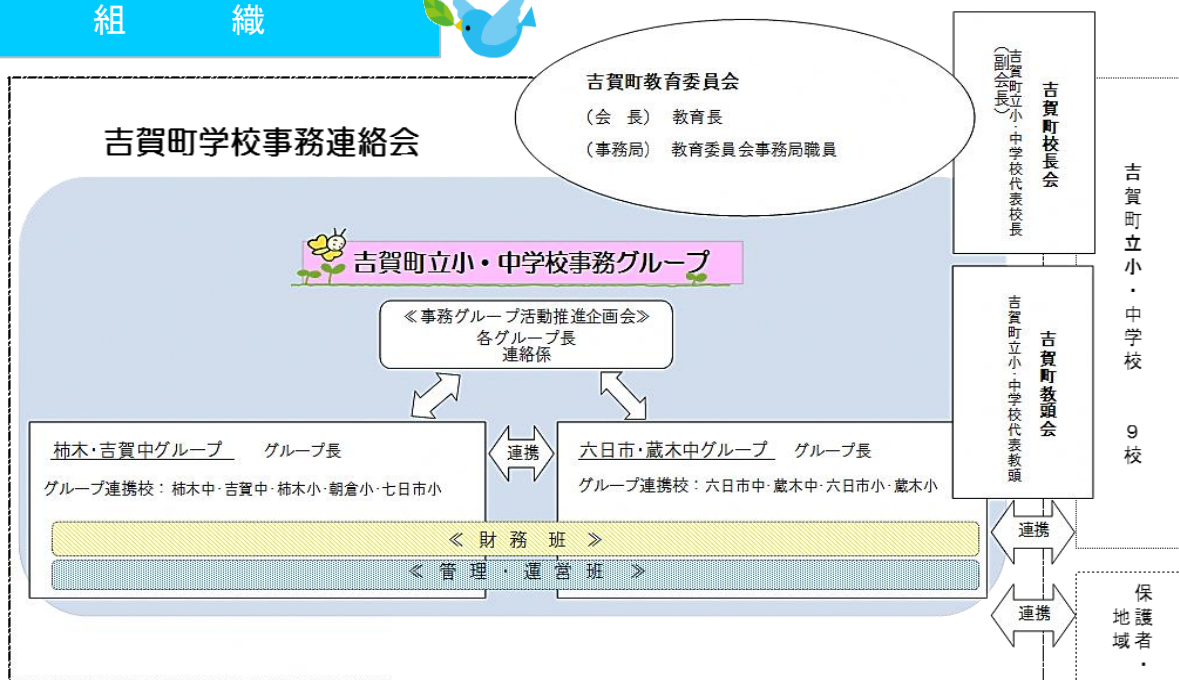
大会に参加してみて、出かける前に漠然と持った疑問に答えが見つかったかと言われると難しいですが、自分なりに充実した時間で、実りの多い経験となりました。

余談ですが、今回の京都大会には島根県から50人を超える人が参加したそうです。京都の地で顔見知り会うことは言いようのない安心感があり、地域協働にもあらゆるところでこういつながりが増えていくことが大切なんだろうと感じたところでした。

吉賀町立小・中学校事務グループ活動

吉賀町には、小学校5校、中学校4校があり、そのうち中学校1校が事務職員未配置校です。2つの事務グループがありますが、毎月合同で事務グループ会を開催し活動を行っています。また、それぞれのグループでは実務面の研修を実施しています。

組 織



- 平成 16～18 年度 島根県小中学校共同実施研究指定校 研究加配 1 校
- 平成 23 年度～ 島根県事務グループ活動の充実のための加配 研究加配 1 校
- 平成 26 年 2 月 吉賀町立学校事務連絡会要綱 吉賀町立小・中学校事務グループ運営規約制定

吉賀町の教育と事務グループ活動

1. 吉賀町教育目標
 - (1)自ら学び、考え、行動する児童・生徒の育成
 - (2)思いやりとたくましさをもつ、心身ともに健やかな児童・生徒の育成
 - (3)郷土を愛する心豊かな児童・生徒の育成

2. 吉賀町教育振興計画

【基本理念】 「ふるさとでの学びや体験をもとにした、明日の吉賀町を支える人材の育成」

【重点目標】

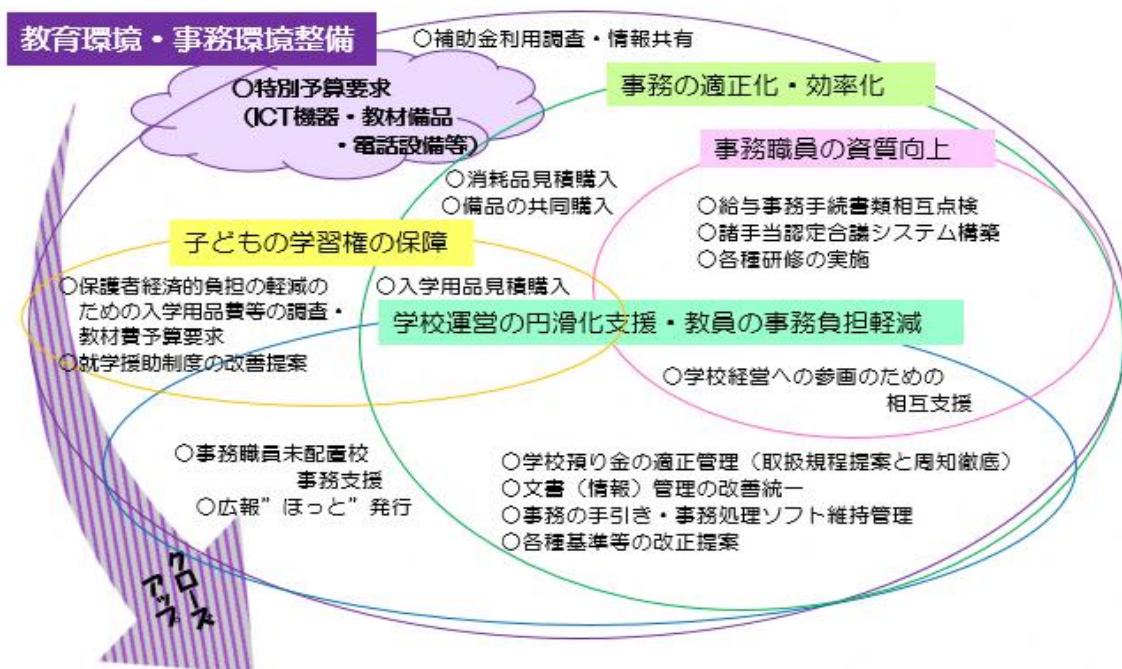
- ・活力ある学校づくり
- ・地域を支える人づくり
- ・サクラマスプロジェクトの推進
- ・学習環境の構築と支援体制の整備

「教育環境・事務環境整備」「教員の事務負担軽減による子どもと向き合う時間の確保推進」「学校運営の円滑化支援」

事務グループ活動



活動の概要



教育環境整備支援～予算要求～

事務グループでは、子どもたちが安心してしっかり学習できるよう、教育委員会・校長会・教頭会と連携して教育環境整備支援に力を入れてきました。

<ICT 機器>

- 【平成 25 年度】 ◇ ICT 研修会実施 (教職員 教育委員会)
- ・ICT 機器の活用 グループウェア 情報セキュリティと情報モラル
- ◇先進地視察 (事務職員 教育委員会)
- ・サイボウズ 校務支援システム
- 【平成 26 年度】 ◇ ICT 研修会実施 (教職員 教育委員会)
- ・ICT 機器活用模擬授業 電子黒板・デジタル教科書
- ◇先進地視察 (事務職員 教育委員会)
- ・ICT を活用した授業視察 ICT 機器活用に関する意見交換

国の整備計画
町教育振興計画



教職員・教育委員会の ICT 機器整備に対する意識の高まり

校長会からの要望

教育委員会が「ICT 機器整備年次計画」を作成

平成 27 年度 全小中学校 **電子黒板セット 3 組** 全小学校 **デジタル教科書** (全学年 4 教科) 整備

平成 28 年度 小学校 **電子黒板セット追加整備** で全通常学級に整備完了

全中学校 **デジタル教科書** (全学年 5 教科) 整備



<教材備品>

◇平成 26・27 年度 2 カ年計画で教材備品の点検・充足状況把握

◇教材備品の特別予算要求 ⇨ 平成 27 年度～ 全小中学校 **30 万円** の教材備品整備実現

<その他> 学校図書館新聞配備費・図書費全小中学校 30 万円、電話設備等整備支援

教頭会との連携

今年度から、学習指導要領改訂を見すえた学習環境整備への取り組み開始



求められる事務職員

雲南市立鍋山小学校
野口 美香

働き始めてまだ数ヶ月という時に、ずっとお世話になっている事務リーダーの方から「替えのきかない事務職員であることが大切である。」という一言をいただきました。今でも耳に、そして心に残る一言です。事務職員に求められる主な仕事と言えばデスクに向かう仕事がメインになると思います。そういった仕事はありがたいことに “誰でもできるように” 効率的なシステムが日々導入されています。そういった状況の中で “替えのきかない事務職員” とはどういった事務職員なのでしょう。

私は、幼い頃からの夢だった教員を目指し、教員免許状を取得して大学を卒業しました。そのおかげもあってか、時々授業を見て回っている時に、担任の先生から「見ているなら（教室の中に入って欲しい。」と言ってもらえます。教材作りの手伝いをお願いされることもあります。そうやって自分の特性が “求められる” 時にとっても仕事へのやりがいを感じ、自分の求める姿（答え）はその先にあるのではないかと思うようになりました。

働き始めてまだ 3 年。これから多くの人と出会い、多くの経験をつむ中で、常に “求められる事務職員” であり続けたいと思います。その過程で “替えのきかない事務職員” の姿を自分に問い続け、自分なりの答えを見つけていきたいです。



原作:千賀ひろみ 画:大橋幸子

【編集後記】

『爽』時雨号を皆さんにお届けすることができたこと、大変うれしく思います。私は、皆さんの原稿を一番に読むことができますのですが、必ず最後に、原稿を書かれた皆さんに対して感謝の気持ちと尊敬の気持ちでいっぱいになります。皆さんの想いがたくさんつまった『爽』は島事研の誇りです！いつまでもこの気持ちを忘れず島根県公立小中学校事務職員として頑張りたいです！

(D・I)